

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	671700284
法人名	医療法人 敬愛会
事業所名	グループホームさくらんぼ
訪問調査日	平成 19 年 6 月 7 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	671700284
法人名	医療法人 敬愛会
事業所名	グループホームさくらんぼ
所在地 (電話番号)	東根市大字野田1924 (電話) 0237-41-2828

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年6月7日	評価確定日	平成19年8月10日

【情報提供票より】(平成19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	33 人	常勤	21 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 19.9 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	準耐火鉄骨 造り	地上2階建て 階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 150 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	7 名	女性	19 名
要介護1	12 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	64 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北村山公立病院、 県立河北病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは小学校のすぐ隣にあるため、子供たちの元気な歌い声、明るい笑い声、楽しそうな話し声がいつも聞こえてくる中で、管理者および職員は、やさしさと情熱を持ちながら、「敬いの心」を常に忘れずに利用者に接しています。2ヶ月に1度行われる運営推進会議の中で出された前向きで活発な意見や要望に取り組みながら、ケアの質の向上につなげていく努力を重ねてきており、また、併設する老健施設とも連携することにより、利用者、家族、職員のもつ不安を軽減し、利用者がより安心してケアを受けられる体制を作っているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題はありません。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ユニットごとに全職員で、自己評価及び外部評価を行い、結果をミーティング等で報告し、見やすいところに掲示して、サービスの質の向上に努め、改善に向けた取り組みを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、市の担当者、地域の代表者、施設長、管理者、家族や利用者が参加して行われており、参加者より出た意見や要望は全職員で検討し、経過を報告し、サービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に、声をかけて何でも話してもらえるような雰囲気づくりをしている。また、ホーム独自のアンケートを年に一度実施し家族が意見や不満を言える機会を設けており、その情報を共有し、話し合うことでホームの運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>一日おきに商店街に買い物に出かけているため、地域の店の人たちとも顔なじみの関係ができており、また、地区のクリーン作戦(ゴミ拾い)への参加、小学生や保育園児が定期的にホームに来てくれるといった地域交流も行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として地域密着型サービスの役割を理解し、「敬い」の気持ちを大切にしたホーム独自の理念を全職員でつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修には、理念を理解してもらうように研修をしている。また、朝礼の時や毎月の全体会議の中で、管理者と職員は話し合い理念を確認し、ケアについて具体的に意見の統一を図り実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一日おきに商店街に買い物に出かけているため、地域の店の人たちとも顔なじみの関係ができており、また、地区のクリーン作戦(ゴミ拾い)への参加、小学生や保育園児が定期的にホームに来てくれるといった地域交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニットごとに全職員で、自己評価及び外部評価を行い、結果をミーティング等で報告し、見やすいところに掲示して、サービスの質の向上に努め、改善に向けた取り組みを行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市の担当者、地域の代表者、施設長、管理者、家族や利用者が参加して行われており、参加者より出た意見や要望は全職員で検討し、経過を報告し、サービスの質の向上に努めている。		

山形県 グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の地域包括支援センター協議会の委員になっており、運営推進会議以外にも市の担当者と交流があり、情報を共有し、ケアサービスの質を向上させるために、共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者のホームでの日々の暮らしぶりや健康状態、金銭の出納は家族の来訪時に情報を提供したり、来訪できない方には月に一度郵送にて、家族に定期的な報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に、声をかけて何でも話してもらえるような雰囲気づくりをしている。また、ホーム独自のアンケートを年に一度実施し家族が意見や不満を言える機会を設けており、その情報を共有し、話し合うことでホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	サービスの質の確保のために、各ユニットの職員を固定化し、利用者や職員の馴染みの関係を大切にしている。また、職員の交代がある場合は、十分な申し送りを行い、利用者へのダメージを最小にするための努力が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が法人内外の研修を受けられるように、年度初めに計画的に決め実施している。また研修の報告は月に一度の全体会議で発表することとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、定期的な研修や交換実習に積極的に参加し、活動を通じて交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や野菜作りを利用者と一緒に行きながら行っている。また、昔ながらの行事や慣わしを、利用者に教えてもらう場面が多く、職員は、人生の先輩としての利用者に敬意を持った対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との毎日の関わりの中で、筆談等コミュニケーションを工夫したり、表情の読み取りなどから、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は、可能であれば本人、家族とも話し合い、また、職員全員でも話し合い、利用者一人ひとりがより良く暮らせるよう、それぞれの意見を反映したものになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、本人や家族の希望及び本人の身体の状態の変化に応じて、関係者の話し合いにより随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医での受診となっ ている。また、法人の協力医療機関による定期的な往診 も行われており、適切な医療が受けられるようになって いる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合の対応については、方針を定め共有し ており、本人及びその家族とも話し合っている。また、 本人や家族の状況に変化が見られた場合、納得のいく 話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、言葉づかいや対応 に十分注意している。また、入職時、個人情報に関する 研修を行っており、プライバシーの確保を徹底してい る。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひ とりの行きたい所、やりたいことを尊重し、買い物や散 歩等一人ひとりの希望に沿って支援している。		

山形県 グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に応じて、食事の準備や後片付けを行い、職員と楽しみながら食事をしている。また、利用者の希望に応える外食の機会もあり、楽しみの一つにもなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望によって毎日の入浴が可能である。また、夜の入浴希望があれば対応する態勢もあり、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事づくりや洗濯物干し、洗濯物たたみは自然な流れで利用者にも手伝ってもらっている。また、ピアノを弾きながら歌を歌ったり、新聞で読んだ話題を提供してくれるなど、利用者一人ひとりの興味や生活の歴史を活かした役割が持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に基づいた外出への支援を行っており、散歩の際の見守りや安全面での配慮に注意している。また、買い物やドライブなどに出かけ、積極的に外に出る機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全職員が、鍵をかけることの弊害を十分に理解しており、日中はセンサーチャイムや、利用者一人ひとりの行動パターンの把握に努め、鍵をかけないで安全に過ごせるように工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の災害訓練を行い、確実な避難誘導、消火器の使い方などの訓練をしている。また、地域の代表者にも参加協力をいただいている。		

山形県 グループホームさくらんぼ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックにより、おおよその栄養摂取量と水分摂取量を把握しており、栄養バランス及び水分量を確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、大きな時計やカレンダーと季節を感じさせる装飾品があり、家庭的で居心地のよい空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた鏡台や仏壇、写真等が持ち込まれ使用されている。また、全室フローリングの床であるが、希望によっては畳にも変更できるなど、利用者が居心地よく安心して過ごせるための居室の工夫がみられる。		